

回胴倒錯者

— PACHISLO FREAK —

開店2

いよいよ、ランドオープンの方6時が刻々と迫ってきた。そう思った矢先にインカム（従業員同士が会話できる通信機）から、主任の檄が飛ぶ。「お客さん入場してもらってから、ホール内に整列しろ！」皆が慌てて整列し、主任が正面ドアを開ける。整列した従業員は練習どおりに、深々と「礼し、「いらっしゃいませ！」と声を出す。一通り挨拶が終わったら、今度は台の整理だ。掛け持ち遊技を防ぐため、台に物を置かず、直接座ってもらうことを個々に促す。しかし、溢れんばかりのお客さんの整理をするのは至難の業である。従業員は皆オロオロするばかり、インカムからは常に店長と主任の怒号が聞こえ、さらに皆のあせりが煽られていく。私もうろたえながら、お客さんの整理を急ぐ。そんなときに聞こえてきた。こんな騒がしいホール内でも通る、とても大きな声だった。「台を決められたお客様は、確認のため、台に座ってお待ちくださーい！」それはまたMさんだった。笑顔を抑えず、大声を張り上げ皆に呼びかけている。最も効率の良い誘導である。さらにMさんは私に近づきこういった「声出してこう」。もちろんそれが最も効果的で、正しい方法に違いない、しかし大勢の前で大声で呼びかけるなど、照れくさくてできない。他の従業員も誰も大声を出そうとせず、お客さん1人づつに声をかけている。私も何とか声を出してはみたが、照れが残っている私の声など、ホールの騒音に簡単に聞き消されていた。

そんな状況でも夕方6時は訪れ、音楽と共に二斉に遊技が開始された。遊戯が開始されると、満席になったそのホール内からは台の音、しゃべり声などの数々の騒音で音楽が聞き消されてしまい、また、インカムの音すら聞こえにくい状況が発生していた。それは、私以外の従業員も皆同じで、時折聞こえる店長・主任の怒号さえも聞き取れず、実質上の「無視」状態だった。

昇格

インカムからなんとなく聞こえる店長の怒号「おい！M！」なにやらMさんに向けて話しているらしい。ふとMさんを見ると、イヤホンを手で押さえ、必至で聞くとする姿がそこにはあった。そしてMさんも私に気がついたのか、私の方に駆け寄って言う「ちよと事務所行ってくるから、ホールよろしく」。店長に呼ばれたのならしようがないが、ど素人の私にホールを任せてもしょうがないとも思うのだから……。チームワークなど切ないバツついたホール内。ど素人集団はドタバタするばかりでその要領の悪さが誰の目にも容易に見て取れる。呼び出しランプは点灯しまくりに、「もうだめだ」と思ったときにMさんがホールに来てくれた。そしてその姿が救世主のように見え、また、見た目も変わっていた。一般従業員の制服姿ではなく、白シャツにネクタイという凛とした風貌に変化していたのだ。その姿には全く違和感はなく、それが正しい格好だなと、私は妙に納得していた。

聞けば、店長に服を着替えさせられ、

精進

営業時間が終わり、ホールに従業員が集められた。ついさっきまで怒鳴りっぱなしの店長・主任だったはずなのに、その様子はなく、むしろ妙に上機嫌だった。素人なりに頭張ったみんなに対して、この表情が一番の評価だったように思う。このとき改めてMさんの班長昇格の説明があったが、誰も異議はなく、また、その後もみんなに親しまれ、頼りにされていた。私の知る中でもこれほど親しまれ、仕事のできた班長は他にはいない。

開店当初は連日超満員で、休む暇もなかった。そんな中で鍛えられたおかげで、みんなの従業員としての成長には目を見張るものがあった。それでも台のエラー対

ろうと考えた。すぐ小さな部品の質問をしたり、あんまり関係なさそうな部分の説明を求めたり、しかし主任は知っていた。それが悔しくて悔しくてしょうがなかったが、いつの間にか、私は何でも知っている人物になっていた。そしていつの間

にか私は班長に昇格していた。

「メダルの流れを感じてください」指導する立場となったこのときから現在に至るまで、私は従業員にこの言葉を言い続けている。

応やメダル補給機の故障には難解なものも多数存在しており、M班長や主任まかせになることがほとんどだった。その2人の姿を見ていると、とても忙しそうだった。休憩中にもトラブルがあれば呼ばれる始末。なのでインカムは休憩中もずっと付けていた。にもかかわらず、M班長も主任も、私たち社員にエラーの勉強をしろとか、いいかげんに覚えろとか一切言う事はなかった。そして私たち従業員もそれに対して聞くことはなかった。聞けばそんなこと自分で調べろやら、そんなことも知らんのか、などと、どやされるのが明白だったからである。そんなおり、その甘さを痛感させられることになった。M班長が休みだったのである。そんなときに限って難解なトラブル。主任は出勤していたが、他のところで手一杯の様子。私になんとかしなくては！ふいにそう思った。このときはメダル補給機のトラブルで、二島にメダルの補給が全くされない状況

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。

回胴倒錯者2周年記念イベント in スーパーマン

1月15日（木）に開催された「回胴倒錯者2周年記念」イベントの様子をうかがってきました。最強＆最高が1/3以上という夢の設定術の腕前に非常に興味をそられたからです。もともと「コソリ」と同店を訪れ「コソリ」帰る予定でしたが、ホール内を散策していた時に店長に出くわしてしまい、挨拶をせずにはいられませんでした。もちろん初対面なので、私の顔は知らないはずなのに、何かを感じ取ってくれたのか、すぐさま事務所に案内してくださいました。事務所内で簡単な挨拶を交わし、ホールの話題に変わりました。その会話を少し紹介します。

私「どうですか、今日は？」

店長「ホールデータを指差し、私にいました。店長「ゲツさんにもA氏にも恥じないように頑張って設定いれさせていたいただきました。結果がこれです。」

私「これは……。赤字ですね、完全な……」

店長「昼前からいから赤字が膨らみだし、現在がこれです。まだ6時なので、これからもう膨らむでしょう」

私「間違いないですね。これから赤字が減ることはないでしょう。ところで、設定配分は、どういった具合ですか？」

店長「全体的に満遍なく入れてますよ。70台はあります」

私「やはり、朝の人氣は辛くないですか？」

店長「はい、そしてすぐにバレルしました。しかし、そう思う意外なところにも入れたんですよ、隣の台です。少し前まで空白でした（笑）」

私「ほんとですね、稼動がかなり少ない（笑）」

どうやら並べて設定6を設置するのも得意技の様子。あ、そういえば私の「どんなときに出したくなりますか？」の質問には次のように答えてくれていました。

「私ね、広島出身でして、広島島の明るいエースがあるという機嫌良く高設定をたくさん使っちゃってますよね。あと、1の付く日はとても大事にしています。」

